2005

聴覚障害者部会
設立20周年記念誌

樹



沖縄市身体障害者協会

樹

大きな木、大地にしっかりと根を張る。
大地をしっかりと覆い尽くす。
暑い日ざしや風雨から守る。
私たち人間は、樹の枝葉であり、また根っこたちでもある。
それぞれは別々のようで、太い幹でしっかり結びついている。
樹は長年の風雪に耐えて成長していく。
数百年も生きるとてつもなく強い生命力。
この大きな樹のもとに、私たちは喜びも
悲しみもまた苦しみもともに、助け合い、励ましあっていこう



沖縄市聴覚障害者部会

設立20周年記念式典

第1部　式　　典　（13:15 ～ 14:15）　　司会　島袋善彦

1．開催のことば　　西平　修

2．式　　辞

聴覚障害者部会会長　前泊恵子

3．祝　　辞

沖縄市健康福祉部部長　仲宗根喜義

沖縄市社会福祉協議会会長　登川重男

沖縄市身体障害者協会会長　金城睦雄

4．感謝状・表彰状贈呈

5．閉会のことば　　与古田肇

第2部　上　　映　（14:30 ～ 16:00）　　司会　西平　修

上　　映

「名もなく貧しく美しく」

第3部　交流会　（16:15 ～ 17:30）　　司会　西平　修

沖縄市聴覚障害者部会
設立20周年記念式典開催要項

1．趣　　旨

沖縄市身体障害者協会の組織の中に聴覚障害者部会を1984年(昭和59年)に設置し、会員相互の親睦と福祉増進を図る目的で呼びかけの活動が始まりました。これまで身体障害者協会をはじめ、行政機関、手話サークルのご援助を仰ぎ、おかげさまで本年で20周年を迎えました。聴覚障害者の福祉に関する環境が大きく変わり、啓発・発展及び聴覚部会の活動や組織強化がますます充実しています。

本事業設立20周年にあたって、聴覚障害者部会の歴史を基に今後の活動に生かし、新たなる福祉のまちづくりを目指して、より一層の発展と福祉の向上に取り組んでいくことを本旨とする。

2．主　　催

沖縄市身体障害者協会

3．主　　管

沖縄市聴覚障害者部会

4．協　　賛

沖縄市、沖縄市社会福祉協議会、手話サークル沖の会、手の会手話サークル、要約筆記サークルこだまの会、中部地区聴覚障害者部会（読谷村、宜野湾市、浦添市、北谷町)、沖縄県聴覚障害者協会

5．期　　日

平成17年２月20日（日）午後１時～５時

6．場　　所

沖縄市福祉文化プラザ　２階交流ホール

目次

式　　辞 …… 5
聴覚障害者部会会長　前　泊　恵　子

祝　　辞 …… 6
沖縄市健康福祉部部長　仲宗根　喜　義
沖縄市社会福祉協議会会長　登　川　重　男
沖縄市身体障害者協会会長　金　城　睦　雄

感謝・表彰状 …… 9

発刊に寄せて …… 11
歴代会長
仲宗根　幸　夫
仲宗根　　隆
岸　本　　智
西　平　　修
諸見里　三　郎
横　田　弘　正

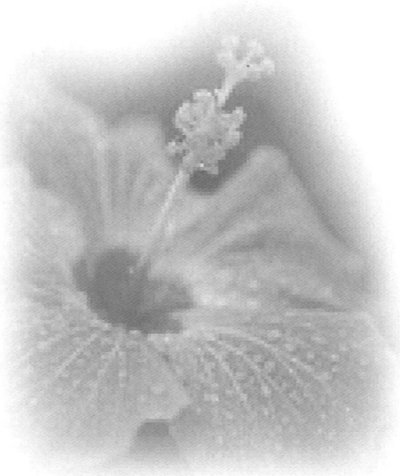
お祝いの言葉 …… 13
手話サークル
沖の会会長　島　袋　鈴　美
手の会会長　新　納　涼　子

中部地区聴覚障害者部会
読谷村聴覚障害者部会会長　比　嘉　正　枝
浦添市聴覚障害者部会会長　砂　川　和　広
宜野湾市聴覚障害者部会会長　神　田　朋　子
北谷町聴覚障害者部会会長　岸　本　　智

20年のあゆみ「あの日 あの時 あの頃」…… 17

歴代役員の紹介 …… 40

編 集 後 記 …… 41



ごあいさつ

式　辞
祝　辞

式辞



沖縄市聴覚障害者部会
会長　前泊 恵子

このたび、沖縄市身体障害者協会 聴覚障害者部会設立20周年記念誌を発刊するにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

私共聴覚障害者部会は昭和60年に身体障害者協会の協力をいただき、その年の５月に結成し、部会が誕生しました。本年度で20周年を迎えることになりました。20年と一口に申しましても、順風満帆の時ばかりではなく雨の日、風の日、激しい道のりを越えて今の聴覚障害者部会が成長したと思います。聴覚障害者に対して理解のある多くの方々の熱意あるご協力とご厚情に支えられ、発展して参りました。振り返って見ると結成当時は会員も少なく、情報提供も身体障害者協会からのお力添えによるものと手話サークルの協力には心より感謝申し上げる次第です。

現在、部会の会員も増え、当事業活動にも積極的に参加するようになり、行政への要望、会員への情報提供の場として部会も大きく発展して参りました。聴覚障害者も安心して生活出来るよう関係団体の連携・強化を図りながら、会員と共に協力しながら取り組みしていきたいと思います。設立20周年記念にあたり、ご協力をいただいた会員、身体障害者協会、各手話サークル、福祉団体関係には深く感謝申し上げます。

終わりに、本誌の発行に際し、多大なご協力とご援助を賜りました皆様にまた執筆をいただきました方々に心から厚く感謝申し上げます。

祝辞



沖縄市健康福祉部
部長　仲宗根喜義

本日ここに、沖縄市身体障害者協会・聴覚障害者部会が設立20周年を迎え、記念誌を発刊されますことを、心からお祝い申し上げます。

貴部会におかれましては、昭和60年に、会員相互の親睦と福祉増進を図る目的で、沖縄市身体障害者協会の組織の中に聴覚部会を設置し、本年度で20周年を迎えられましたことに心からお喜び申し上げ、これまで、貴部会の活動や発展に努めてこられた役員の方々並びに会員の皆様方のご尽力に対し、深く敬意と感謝を表する次第であります。

さて、障がい者に対する福祉サービスは、障がい者自身が自己決定をし、サービスを選択する支援費制度の実施など障がい者の福祉に関する環境が大きく変わりましたが、聴覚に障がいのある方が、一般社会での中で生活していく上で最も大きな障がいとなるのがコミュニケーションの難しさでしょう。そのため、本市といたしましても、障害者社会参加促進事業として、庁舎内においての手話通訳者の設置や手話奉仕員の派遣など、聴覚障がい者の福祉の増進のための諸施策を実施しているところであります。今後とも、本市障がい者向上のため、さらなる施策の充実に努めてまいる所存でございますので会員の皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

おわりに、沖縄市身体障害者協会・聴覚障害者部会が設立20周年を契機として益々充実した活動が展開されますよう祈念申し上げますとともに、会員の皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げまして、祝辞といたします。

祝辞



沖縄市社会福祉協議会
会長　登川 重男

沖縄市身体障害者協会 聴覚障害者部会の設立20周年を迎えましたことに、心よりお祝いを申し上げます。

貴部会におかれましては、コミュニケーションの確保にご苦労された苦難の時代を乗り越え、今日の日を迎えられましたことは、設立以来の役員並びに会員のみなさまのご努力と積極的な活動によるものと高く評価されているところであります。

私ども沖縄市社会福祉協議会は、聴覚に障がいを持つ方の生活や社会環境について理解を深めるとともに、日常生活で必要なコミュニケーションの確保と、社会参加の促進を図ることを目的に、「手話奉仕員並びに要約筆記奉仕員養成講座」を実施しております。

貴会におかれましては、本講座の現場実習や交流会において、会員を派遣していただき、受講生の手話や要約筆記技術の向上のみならず、聴覚障がい者とともに活動し、日常生活を支えるボランティアの養成に貢献されていることに対しまして、心より感謝を申し上げます。

私ども社会福祉協議会も、ボランティアの育成支援を始め、障がい者福祉に鋭意努力する所存でございますので、今後ともご支援をお願いいたします。

結びに、沖縄市身体障害者協会 聴覚障害者部会のますますのご発展と、会員のみなさまのご健勝を心から祈念申し上げまして、あいさつといたします。

祝辞



沖縄市身体障害者協会

会長　**金城 睦雄**

このたび、沖縄市聴覚障がい者部会の設立20周年を記念し、記念誌の発刊にあたり、一言あいさつを申し上げます。

聴覚障がい者部会は、昭和59年に発足以来今日まで、聴覚障がい者の親睦と相互理解を深めると共に福祉の向上に努めて参りました。当初は10人余の小さな部会で発足しましたが、その後の歴代会長をはじめ、役員、会員の方々のたゆまざる努力と熱意により、現在では30人余の部会へと発展してまいりました。年間行事もビーチパーティー、忘年会、手話サークルとの交流会を行い、消防による救急時の119番対応や119番メール等の学習活動、さらには身障協の各種事業に積極的に参加する等、大きな成果をあげておりますことは誠に喜ばしいことでございます。

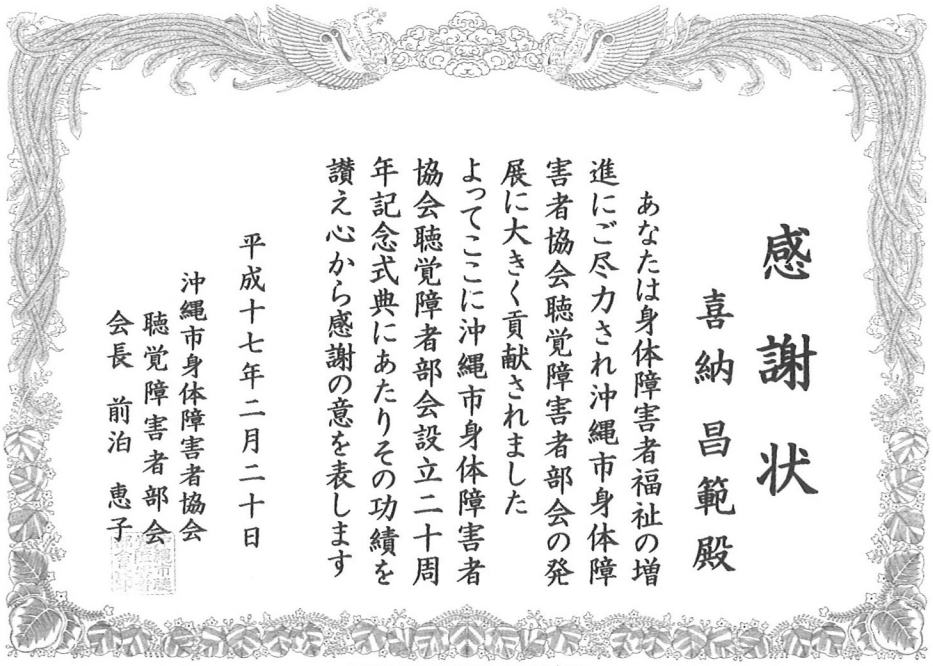
今回の記念式典に際しましても、部会員一丸となってコーヒーの販売等、資金造成に努力されたことは、聴覚障がい者部会の自立への並々ならぬ意欲と熱意の賜であり、身障協といたしましても大変頼もしく思っています。

近年、社会福祉は従来の施設福祉から地域での生活支援へと大きな変革を遂げ、新しい福祉社会が築きあげられつつあります。しかしながら、聴覚障がい者の雇用問題や手話通訳者、要約筆記者等の不足による聞こえない障害への壁はまだまだ厚く、課題は山積しています。ノーマライゼーションの理念に基づく共生社会の実現には、行政等のご理解とご協力が不可欠であり、なお一層のご支援をせつにお願いする次第でございます。

最後に、記念誌発刊にご尽力を頂きました方々、並びに関係各位に対し、衷心より感謝申し上げるとともに、聴覚障がい者部会に今後とも尚一層のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げ私のあいさつと致します。



感謝・表彰状



感謝状

喜納 昌範 殿

あなたは身体障害者福祉の増進にご尽力され沖縄市身体障害者協会聴覚障害者部会の発展に大きく貢献されましたよってここに沖縄市身体障害者協会聴覚障害者部会設立二十周年記念式典にあたりその功績を讃え心から感謝の意を表します

平成十七年二月二十日

沖縄市身体障害者協会
聴覚障害者部会
会長 前泊 恵子

感謝状

喜納 昌範　湧川 和夫
池原 ヨシ子　知念 絹代(旧 比嘉)
比嘉 君江　島袋 則子(旧 前田)
前川 清治



表彰状

岸本 智 殿

あなたは沖縄市身体障害者協会聴覚障害者部会の元会長、会員として積極的活動され誠心誠意にご尽力されましたその功績は誠に顕著であります

よってここに沖縄市身体障害者協会聴覚障害者部会設立二十周年記念式典にあたり深く感謝の意を表します

平成十七年二月二十日

沖縄市身体障害者協会
聴覚障害者部会
会長 前泊 恵子

表彰状

岸本 智　横田 弘正



表彰状

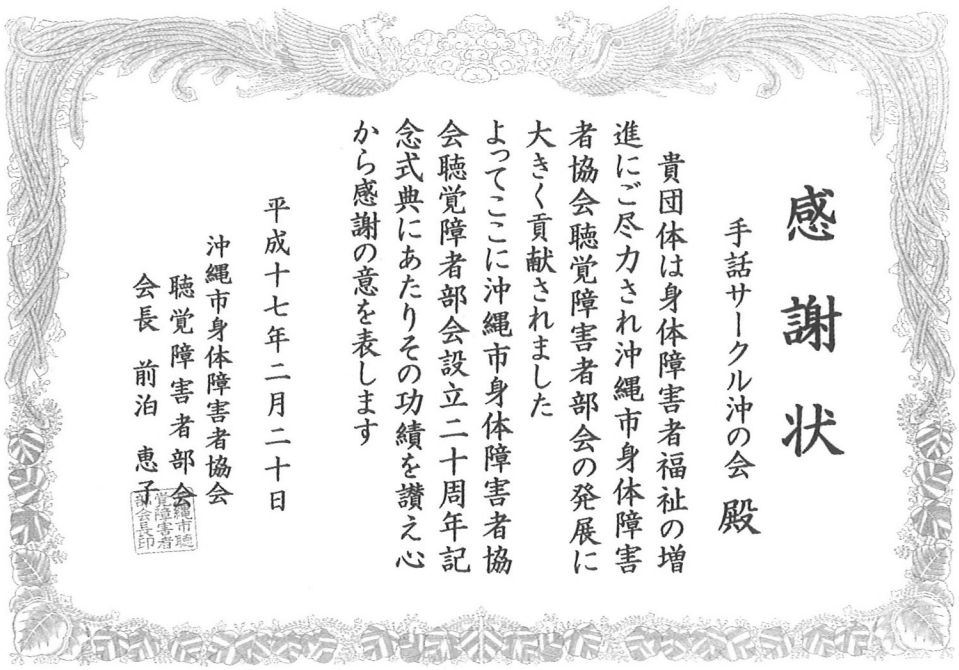
岸本 智殿

あなたは沖縄市身体障害者協会聴覚障害者部会の元会長、会員として積極的活動され誠心誠意にご尽力されましたその功績は誠に顕著であります
よってここに沖縄市身体障害者協会聴覚障者部会設立二十周年記念式典にあたり深く感謝の意を表します

平成十七年二月二十日
沖縄市身体障害者協会
聴覚障害者部会
会長 前泊 恵子

表彰状

島袋	武雄	仲宗根	隆
諸見里	三郎	島袋	英子
仲宗根	通子	仲村	春子
仲宗根	松助	宮平	カズ子
我那覇	初子	栄野川	盛文



感謝状

手話サークル沖の会 殿

貴団体は身体障害者福祉の増進にご尽力され沖縄市身体障害者協会聴覚障害者部会の発展に大きく貢献されました
よってここに沖縄市身体障害者協会聴覚障者部会設立二十周年記念式典にあたりその功績を讃え心から感謝の意を表します

平成十七年二月二十日
沖縄市身体障害者協会
聴覚障害者部会
会長 前泊 恵子

感謝状

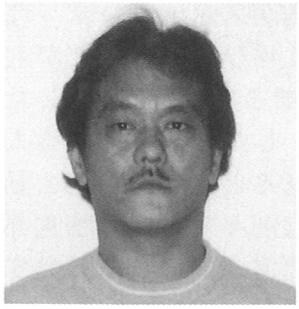
手話サークル沖の会



発刊に寄せて

歴代会長

仲宗根幸夫	初代会長	（１９８４～１９８６年）
仲宗根　隆	２代目会長	（１９８６～１９８８年）
	６代目会長	（１９９３～１９９６年）
岸　本　智	３代目会長	（１９８８～１９８９年）
西　平　修	４代目会長	（１９８９～１９９１年）
諸見里三郎	５代目会長	（１９９１～１９９３年）
横田　弘正	７代目会長	（１９９６～１９９８年）
前泊　恵子	８代目会長	（１９９８～２００１年）
	９代目会長	（２００１～　現在　）



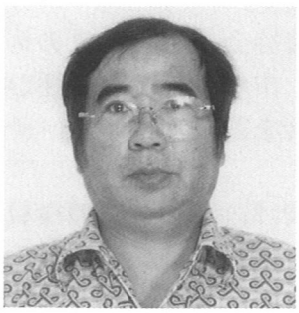
仲宗根　幸　夫

聴覚障害者部会設立20周年おめでとうございます。

昭和60年５月、設立当初は参加者が少なかったけれどやがて、参加者が増えてきました。手話サークル沖の会との交流や他市町村の人達との交流は楽しい思い出になり、今でも忘れられません。

障害者福祉の向上のため活動している聴覚部会の皆さんは素晴らしいと思います。

心からお礼を申し上げると同時にこれからも共に頑張っていきましょう。



仲宗根　　隆

聴覚部会設立20周年記念おめでとうございます。

聴覚障害者部会は、沖縄市身体障害者協会の元会長喜名昌範氏との話し合いにより、昭和59年に発足し、聴覚障害者部会を設立しました。

当事は部会会員はそれぞれ仕事をしているため集まりも少なかったが、身障協の行事、部会活動、手話サークルとの交流しながら会員拡大に努めました。最後にこれからの部会の活躍をお祈り致します。



岸　本　　智

設立20周年おめでとうございます

私は沖縄市身体障害者協会聴覚部の５代目の会長を務め、活動をしました。しかし、聴覚部会の行事を企画するのですがなかなかうまく行かず申し訳なかったと思っています。私自身は、会議にも毎回出席しましたが、北谷に引越すために短い１年半の活動で会長を終えました。会長になる少し前に会計も経験しました。会計の仕事には慣れていなかったので、頭を抱えながら、学習会にも参加しました。今では会費の収支を担当して良い経験になったと思います。

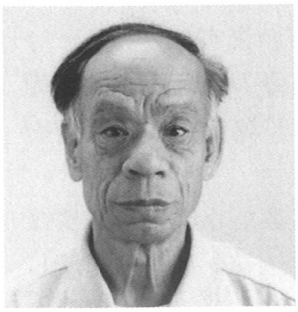
北谷町に引越して１年後の昭和62年にかりゆし国体が開催されました。その翌年に北谷町で、手話サークル「北の会」を発足し活動を続けてきました。現在は、北谷町身体障害者協会聴覚部の会長を務めておりますが仕事が忙しくなかなか活動は出来ませんが今後とも頑張っていきたいと思います。



西　平　　修

聴覚部会設立20周年おめでとうございます。

私たち聴覚部会は昭和60年に設置し活動がスタートしました。設立当初は家まで訪問し、会員の皆さんに呼びかけましたが大変でした。家族にも協力をお願いしましたが断られる人もいました。身障協の行事にも積極的に参加しました。しかし、参加する人が少なかったです。歴代会長も当初を振り返ると大変だったと話していました。以前は聴覚障害者と難聴者は別々で今では聴覚部会会員の中に難聴者も数人入っています。障害の面で共に活動する中、少々難しい事もありますが、私たちは身障協の会員としてこれからも頑張って行きたいと思います。以前は手話通訳者も少ない団体との交流でコミュニケーションに不便な事が多かったです。今は手話通訳者も増え、又聴覚障害者に対する社会の理解も以前に比べるとよくなっています。私たち部会も皆さんのご指導を受けながら会員団結し、これからも頑張っていきたいと思います。



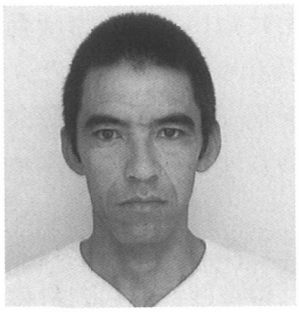
諸見里　三　郎

聴覚部会20周年記念おめでとうございます。

沖縄市身体障害者協会設立した頃、身障協会長から聴覚の皆さんも役員として協力して欲しいと言われ、市内の聴覚者に呼びかけ、視覚部会が出来たことを機に聴覚部会を設立しました。それが昭和60年です。

初代会長の仲宗根幸夫氏と共に活動を続け、現在多くの役員、会員と20年を迎えることができました。この20年は簡単な道のりではありませんでした。私が５代目の部会長に選出され、会長として２年間努めた頃、難聴者も含め約80人の家に呼びかけの通知を送りました。約25人の会員が集まり活動しました。会員を増やす事に悩まされ思うように活動がうまく行かず、会長を辞めたいと思った時期もありました。しかし、現在、こうして20周年を振り返ると懐かしい思い出がいっぱいです。これからは役員、会員の皆さんと聴覚高齢者が家に閉じこもりにならないよう、高齢者が楽しく参加できる行事に取り組んで行きたいと思います。

最後に私たち部会に助言、協力をいただいた地域の皆さんに心より感謝申し上げます。



横　田　弘　正

沖縄市聴覚障害者部会設立20周年、誠におめでとうございます。

私は現在、浦添市に移り、家族と共に暮らしていますが、このように部会の記念すべき日にお招きいただき感謝しております。私は８年ほど前に部会長として努めました。振り返ってみると部会活動も、いろいろな行事で大変な時もありましたが、私が未経験という事もあり、役員の皆さんに励まされ協力をもらいながら活動をしてきた事が忘れられません。

最後に聴覚部会におけるコミュニケーションを多くの方に理解してもらう為、これからも会員の皆さんと積極的な活動を続けていける事を願い、私のあいさつと致します。



お祝いの言葉

・手話サークル沖の会

・手の会手話サークル

・中部地区聴覚障害者部会

手話サークル沖の会

会長　島袋鈴美

沖縄市聴覚部会設立20周年、おめでとうございます。

20周年の歩みを振り返ると一言では語れない苦労話や楽しい思い出がいっぱいある事と思います。

発足当初は聴覚障害者に対する社会の理解も少ない中、歴代会長をはじめ、会員皆様の活動の成果が今日に至っていると思います。私たち「沖の会」の発足は聴覚部会より少し前に活動が始まり30周年を迎えようとしています。その当事の写真を見るとろう者と健聴者が楽しく交流しているのが多くありました。私たちサークルもその頃の原点を見つめ直し、手話を学ぶだけでなく聴覚部会の皆さんと共に、互いに支え合いながら歩んでいきたいと思います。

終わりに、部会の皆さんがこれからも益々会員の団結を図り、積極的な社会参加を目指しご活躍されることを願い、お祝いのご挨拶といたします。

手の会手話サークル

会長　新納涼子

この度、沖縄市聴覚障害者部会が設立20周年を迎えられたことをお祝い申し上げます。

沖縄市聴覚部会におかれましては、長年にわたり、聴覚障害者の生活と文化の向上を図るために各種の活動を積極的に展開されるとともに、聴覚障害者の中心的な役割を担ってこられました。とりわけ、沖縄市「手話奉仕員養成講座」及び地域「手話サークルへの協力」等さまざまな活動に取り組み、聴覚障害者との交流及び手話に対する知識と技術の向上に大きく貢献しました。貴部会のこれまでの御尽力に対し、心から敬意を表します。

現在、自らの「聞こえ」の不自由さと向き合いながら、日常生活においてコミュニケーションを確保するための方策や、社会における障害に対する理解を深める必要性など、解決していくべき課題は少なくありません。すべての聴覚障害者が住み慣れた地域の中で、安心して豊かに暮らせるよう、又地域における自立と社会参加をより一層推進出来る為に、貴部会の更なるご活動をご期待申し上げます。

私共「手の会」も貴部会との絆を大切に、微力ながらも協力しあい共に歩んでいきたいと思っております。

終わりに、沖縄市聴覚障害者部会のますますの御発展と会員皆様のご活躍を心より祈念申し上げ、あいさつといたします。

読谷村聴覚障害者部会

会長　比　嘉　正　枝

沖縄市身体障害者聴覚障害者部会が設立20周年を迎えるにあたり心からお祝い申し上げます。

聴覚障害者部会が設立以来、いろいろなご苦労があっただろうと推察しますが、これらの壁を乗り越えて、それ担当の実績を蓄えられ、今日ここまで発展できましたことに対しまして深く敬意を表します。

ひとことで20周年の歩みといいますが、会活動を支えてくれました会員の皆様が、一致協力して、障害をのりこえて自立する精神を高く掲げ、日々努力して来た20年であったかと思います。

「継続は力なり」この20年の活動の上に今度とも会員が親睦を深め、会話を透かして出会いを喜び、人生を有意義に楽しみながらおくって頂くことをお願いするものであります。

最後に皆様のこれからの御健康、御多幸と合わせて貴会がますます発展しますよう心から祈念申し上げお祝いのことばと致します。

浦添市聴覚障害者部会

会長　砂　川　和　広

沖縄市聴覚障害者部会設立20周年おめでとうございます。

この節目を迎えるのも地域身体障害者協会や行政機関、手話サークルなど多くの関係者の心温まるご理解とご協力のおかげだと思います。

私達中部地区聴覚障害者部会も各市町村に部会ができ、中部地区または沖縄県全体の聴覚障害者福祉が発展するよう連携を深めて行きたいと思います。

同時に部会の大先輩である沖縄市聴覚部会の益々の発展を願い私の挨拶と致します。

宜野湾市聴覚障害者部会

会長　神　田　朋　子

沖縄市聴覚障害者部会の設立20周年式典を開催するにあたり心からお祝いを申し上げます。

沖縄市聴覚部会の福祉の増進や社会参加意欲などさまざまな活動には、心から敬意を表します。

三位一体の改革で財政が危機的状況の中、通訳者の派遣・養成・事業予算など多くの問題が山積みされていますが、障害者はお互いに情報交換・交流を持ち安心できるまちづくりを目指し頑張りましょう。

最後に皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げあいさつと致します。

北谷町聴覚障害者部会

会長　岸　本　　智

沖縄市身体障害者聴覚障害者部会設立20周年記念式典開催にあたり心からお祝いのご挨拶を申し上げます。

関係各位、多数のご参加のもとに開催されますことを心からお喜び申し上げます。

今から５年前、中部地区聴覚障害者部会が設立され、新年会や時には１年１回の交流会が行われ、お互いの情報交換、ふれあいの場として楽しく過ごさせて頂きました。

北谷町聴覚部会といたしましては、今後は地域との交流も含め活動の場を広め、より良い豊かな生活が出来るよう努めたい次第でございます。

今後も聴覚障害者部会のますますの発展とご臨席の皆様の御健康と御活躍を心から祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

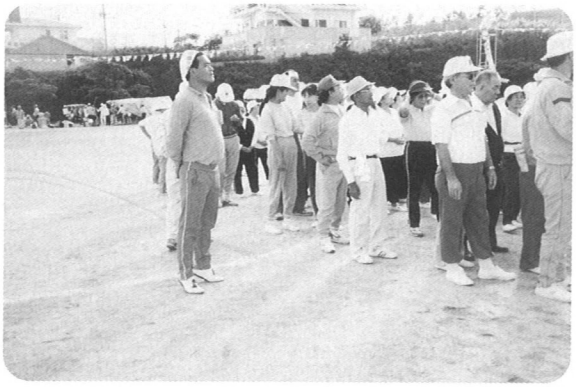


20年の歩み

あの日、
あの時、
あの頃



昭和60年　第１回 定期総会



昭和60年９月　老人運動会



平成３年７月14日
北谷サンセットビーチ

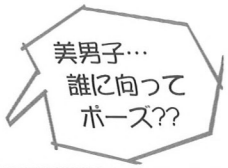


平成３年７月14日　第７回ビーチパーティー



平成３年９月14日　大坂・高槻市との交流会







平成５年12月　クリスマスパーティー



平成４年８月16日　第６回 エイサーまつりにいて





第11回 京都いこいの村視察

平成6年10月24日～27日
大坂・京都視察研究



大坂・京都視察研究（部会）



平成６年10月25日　いこいの村

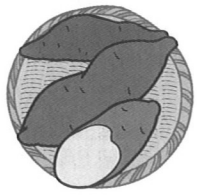
あずき豆取り
お姉さん
似合ってるネ

京都研修最高！
おみやげいっぱーい　関西空港





京都いこいの村





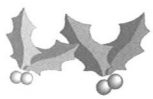
平成８年２月　第12回ピクニック



平成９年12月14日　第12回Xマスパーティー



平成９年12月14日 Xマスパーティー横田会長のあいさつ









平成10年８月





平成10年11月29日　合同ピクニック（県民の森）



武雄さーん
ナイスバーディー

お手手つないで
花いちもんめ♪♪



第14回合同ハイキング



平成12年６月11日　第16回定期総会　学習会

なをみちゃん
一人でハッスル
ハッスル



隆やい、
わしの席
どこじゃい



平成12年12月10日　Xマスパーティー 京都観光ホテルにて

廿性のおしゃべり！びーちくばーちく！



平成12年12月10日　Xマスパーティー 京都観光ホテルにて

介護保険制度について学習会



比嘉米子講師

平成12年１月24日　介護保険について



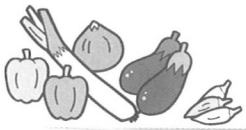
むつかしーな介護保険？？？

第16回　介護保健について学習会



美人四姉妹 可愛いね宮平ちゃん

第16回　沖縄料理講習会

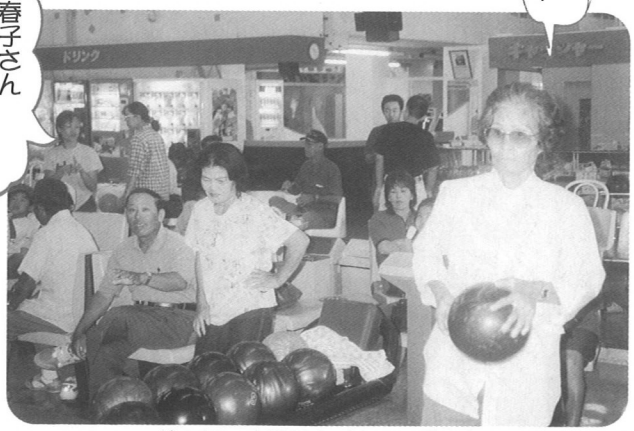






第17回　定期総会

若いのには負けないサー

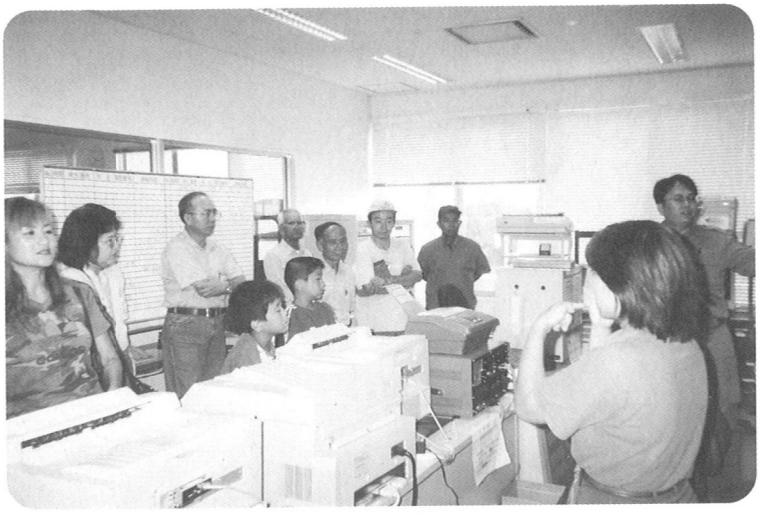


春子さんはりきってるね

安男さんおいしいね



第17回　定期総会ボウリング大会



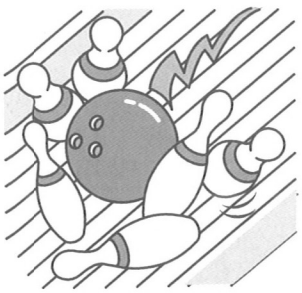
第18回　消防119番メール

平成14年
119番メール
説明会









平成14年

共同募金

赤い羽根募金

10月1日～12月31日

この笑顔に募金協力
お願いしまーす!!













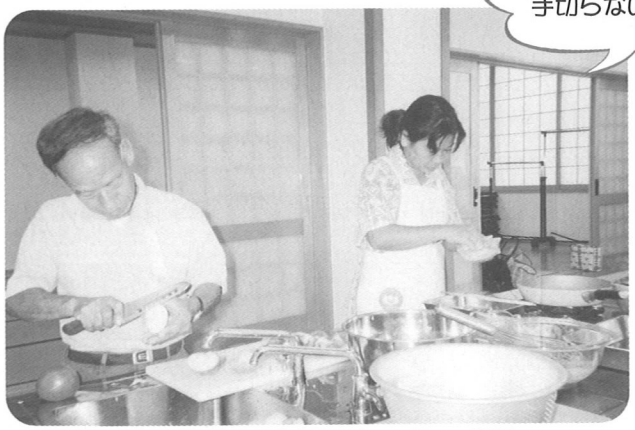
ヘルシー料理学習会

となりの
赤いシャツの
おばさん？？
は誰かな？





三郎さん
手切らないでヨ





平成15年９月17日　第19回　ヘルシー料理

京都いこいの村
梅の木寮との
交流会



京都いこいの村　梅の木寮との交流会



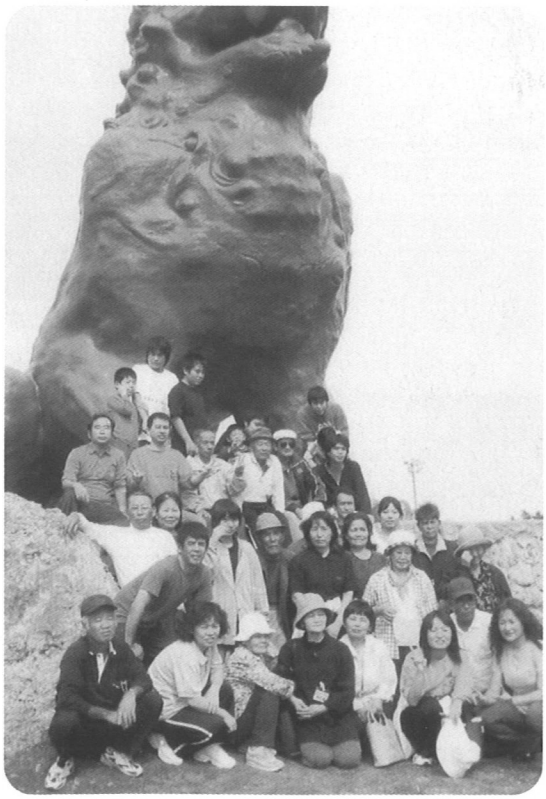
マカロニー
Xマスリース作り
いつだったかなー!!
美人の若妻??

聴覚部会
手話サークル
リハビリ友の会
とのピクニック



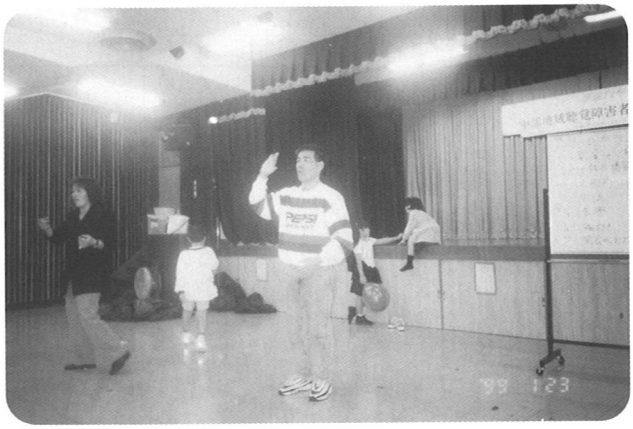
平成９年　第12回





３団合同ピクニック
（聴覚部、沖の会、手の会
手話サークル）

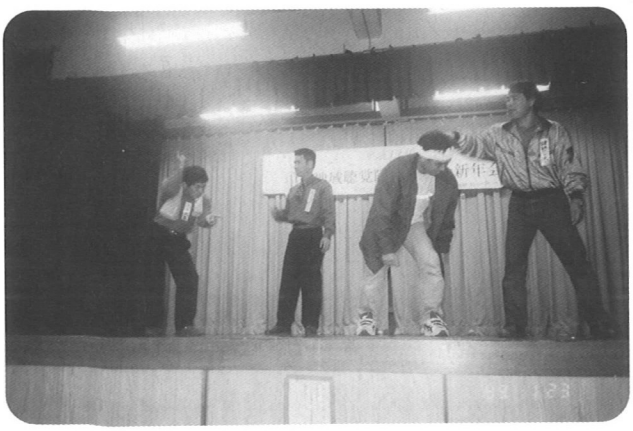
平成11年1月23日
第1回中部地区聴覚障害者部会「新年会」
沖縄市社会福祉センター







第1回　中部地区新年会（沖縄市主催）







平成12年１月30日　第２回 中部地区新年会（読谷村社会福祉センター）



平成13年１月28日　第３回　中部地区新年会（浦添市社会福祉センター）



平成14年１月27日　第４回 中部地区新年会（宜野湾市社会福祉センター）



平成15年２月２日　第５回　中部地区新年会（北谷町老人社会福祉センター）

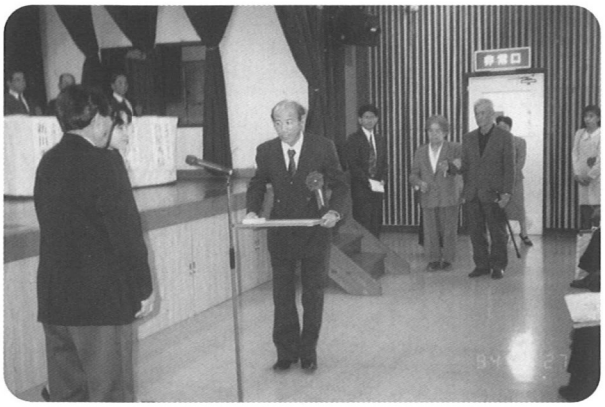
沖縄市身体障害者協会
行　事



平成14年　新年会



国際カーニバルパレード

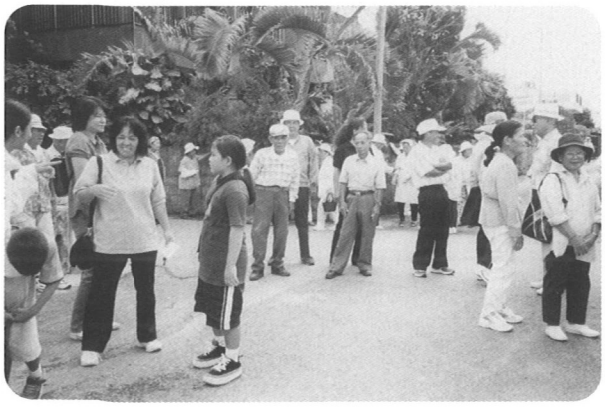

市身協　創立30周年記念



平成５年　創立30周年


平成12年　市身協　ピクニック


平成12年　市身協　Gゴルフ交流会


平成13年　市身協　ピクニック


平成13年　定期総会

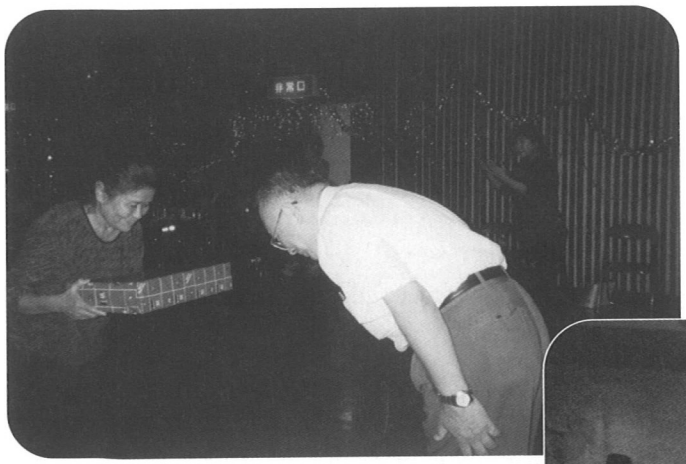




ピンキーとキラーズ
恋の季節″







仮面仮装
パーティー

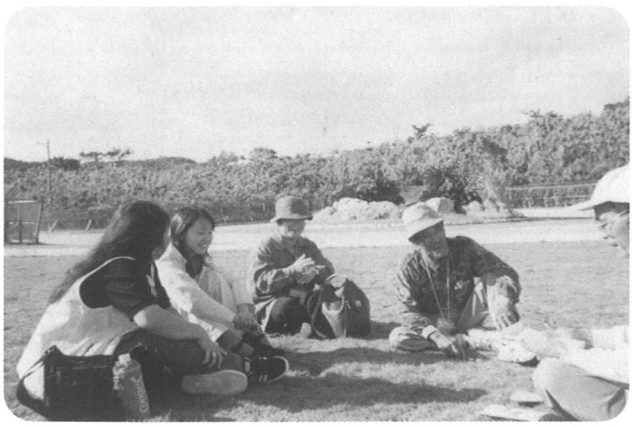








平成12年　北部





受講生と聴覚部会とのピクニック

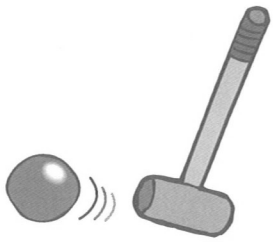
社協主催
手話奉仕員養成講座







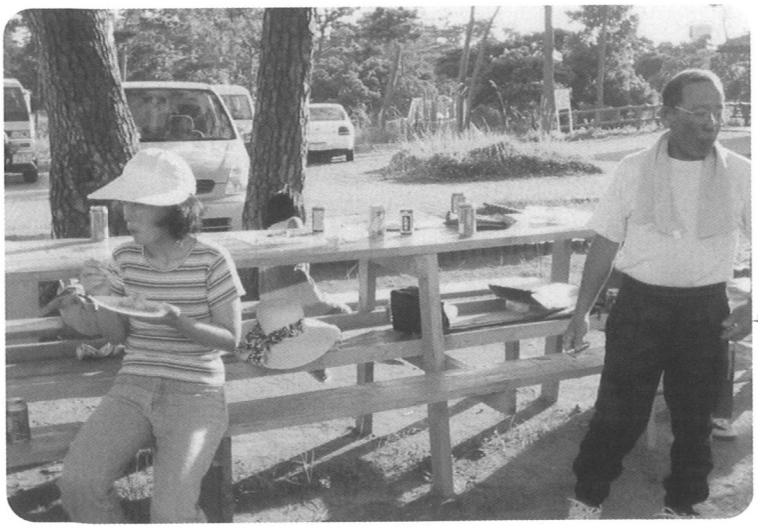
Gゴルフ交流会
松助さん～、
得点、何点？
気になる？



さ～!!
頑張って、
一位賞品は
何だろうな～??







広美さん～！！
おいしい？肉は
全部食べたの？

安男さん～！！
Gゴルフ疲れ？年？…



県身体障害者スポーツ大会

メダルだー（城間）
銅メダルの高吉さん
やったぜー!!





アイラブユー!!
ピース!!
美人より、あなたへ

よく頑張った。
我那覇初子さん～!!



宮平さん、
足すべらない
でねー！！





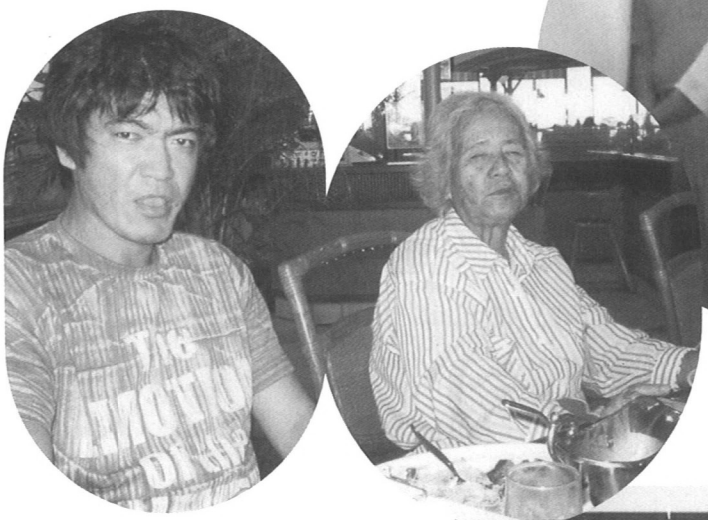
モノレール

多嘉良さん、
うれしそうだね



西平さんー、
モノレールに
乗ってキンチョー？







お昼ランチ、
おいしかったね。



お疲れさまでした。

手話で業務案内

沖縄市役所

通訳を常時配置

聴覚障害者、敷居低く

【沖縄】耳の不自由な人が役所を訪れた際、スムーズな案内ができるようにと、沖縄市は一日から総合案内窓口に手話通訳のできる担当者を置いた。関係者は「聴覚障害を持つ人にとって、役所の敷居が低くなり、コミュニケーションが取りやすくなる」と歓迎している。手話通訳者を窓口に常に配置するのは県内の自治体では沖縄市が初めて、という。新しく案内担当となったのは手話サークル「沖の会」会員の名嘉真智恵さん(三六)＝沖縄市高原。名嘉真さんは沖縄市のエイサー祭りなどの大きなイベントや福祉関係の催しで手話通訳を務めてきたベテラン。同市が「沖の会」に人選を頼み、名嘉真さんが案内業務を担う委託業者に派遣された。



手話による案内業務が始まった沖縄市。担当の名嘉真さんは意欲を燃やしている＝1日午前、沖縄市役所1階ロビー

名嘉真さんは「早く各部所の業務内容を覚えて、耳の不自由な方のスムーズな市役所利用に役立ちたい」と抱負を語った。

県内の自治体では、那覇市や浦添市などで、手話通訳者を担当課内に置いて聴覚障害者が来た場合には出向くなどして対応している。また、那覇市立病院は毎週月、火曜日の午前中に手話案内を置いている。そのほかの自治体では筆談を用いての案内が多い。

沖縄市ではこれまで、浦添市などと同様に、長寿社会対策課内の手話通訳者(嘱託)が対応していたが、同市は「障害者にやさしい街づくりをさらに一歩進め、聴覚障害者が来庁した際、窓口での問い合わせに応じてすぐに案内できる体制を整えた」(同市市民交流室)。同市は今後、職員への手話研修も進める方針。

沖縄市社会福祉協議会の伊佐真栄事務局長は「耳の不自由な人と役所のコミュニケーションを取る上で、手話通訳者を常に置くことは朗報だ。ボランティアでなく、職業として手話通訳を認めた上での配置であり、手話に対する意識も高まるでしょう」と歓迎している。

わが子同様声かけを

あらゆる場で語り合う



地域福祉について、手話でパネリストに質問を投げかける参加者＝沖縄市農研センターでの第４分科会

子供の福祉

課題は10年前から同じ

「いま、子どもたちはしあわせか」をテーマに討議。夜型社会の是非論議に関連して、わが子が、あわや障害事件に巻き込まれそうになった体験を主婦が報告したり、ボランティア活動の点数評価をめぐる論議など、さまざまな分野にわたる事例が出た。

そのなかで子供会関係者からの「課題は十年前から同じ。地域の子もわが子と同様にとらえて〝声かけ〟ができるかどうか」「あらゆる場で子供について語り合う人が大切だ」などの指摘が共感を呼んだ。

地域の持つ重要性に関して、助言者の真境名光弁護士は「ユイマールの精神は子供に教えるものではない。親自らが実践していくことこそが大切だ」と強調。また同じく助言者の石黒チイ子・帝京平成短期大学教授も「沖縄の島社会とは福祉ネットワークそのものではないのか」とした上で、ユイマールや方言など独自の文化を守り、培う努力を求めた。

障害者の福祉

働く意欲育てる

障害者福祉の第一分科会は「成人後の就労～どう自立を支援する」がテーマ。小規模作業所あいとぴあ（勝連町）代表の東浜光雄さんと沖縄盲学校教諭で若竹共同作業所（浦添市）の朝妻彰さんの事例発表を軸に、障害者の働く場をどうつくっていくか、地域とのつながりをどう発展させるかなどを議論した。

フロアからは、小規模作業所の抱える問題として、財政力の弱さや働く人たちへの賃金体系をどうすればよいのかなどが指摘され、福祉の先進地とされる東京都町田市はじめ県外での状況も報告された。

助言者の鈴木清覚さん（共同作業所全国連絡会委員長）は「グループホームと小規模作業所が日本の障害者福祉の新しい流れ。障害者自身が主人公となるような福祉」と強調し、国仲郁代さん（障害者職業カウンセラー）は、障害者の自立のために「働く意欲をどう育てるか、それを補完するシステムをどう整備するかが課題」と述べた。

地域の福祉

協力体制が第一

「共に生き支えあうネットワークづくり」をテーマに、宮城竹秀名護市民児協会長と兵庫県竹野町社協の吉谷紀之事務局長が事例発表。宮城会長は、全社協などからモデル地域に指定された同大中区の福祉活動を例にあげ「ネットワークづくりは、行政だけに任せるのではなく区民はじめ市民挙げての協力体制が第一」と。吉谷事務局長はボランティアの主体的な取り組みや、民間と行政が相乗りしたサービス総合化の重要性を強調した。

フロアからは「聴覚障害者に対するホームヘルパーが制度化されていない」「地域福祉が老人福祉中心に傾きすぎてはいないか」「在宅福祉のサービス水準はどうなっているか」など、地域福祉の課題や問題点などに対する意見が出て、活発な論議を展開。助言者の渡部剛士東北大教授は「だれのために生きるのかということを、再度考えさせられた意義深い集会だった」と感想を述べた。

料理しながら手話覚える

沖縄市社協が養成講座

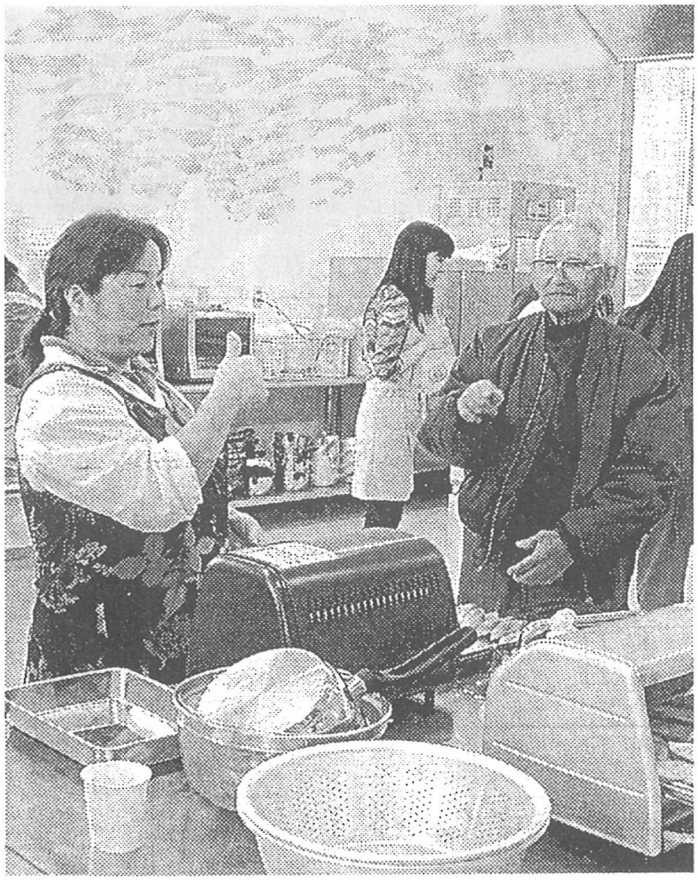
【沖縄】料理をしながら、手話を覚えよう―沖縄市社会福祉協議会が実施している「手話奉仕員養成講座」が十二日午後、市福祉文化プラザの調理実習室で開かれた。実際に料理をし、手話を学ぼうという同講座初めての試み。参加者は「実用的で、何より講義よりも面白い」と声を弾ませていた。

講座に通っている同市美里の真喜志かよこさんが、調理師の資格を持っていることから実現した。和気あいあいとした雰囲気の中でスパゲティ、バゲットなど四品に挑戦した。

昨年四月から講師をしている聴覚障害者の前泊恵子さんは「単語や、動作などが頭にすんなり入ってくるいい勉強法です。このような企画で、手話で話してみたいと思う人が増えてくれれば」と歓迎した。

スーパーで働いていた時、聴覚障害者と接し、手話の必要性を感じたという同市大里の古堅美幸さんは「開放的ですね。楽しみながら勉強できるのがいい。調味料の手話を覚えました」とほほ笑んだ。

講座には聴覚障害者十一人も参加。料理の後は、受講生と一緒にスパゲティなどを食べながら、手話で和やかに交流していた。



料理をしながら手話を覚える受講生＝沖縄市福祉文化プラザ

（25） 市町村　2001年（平成13年）9月20日　木曜日

手話で買い物体験

沖縄市社協が養成講座

【具志川】沖縄市社会福祉協議会の手話奉仕員養成講座の一環として、聴覚障害者の買い物を助ける実践授業が十八日、具志川市のサンエー具志川メインシティで行われた。受講生十二人と講師役の聴覚障害者六人が参加。「海外旅行の準備をする」「肌に合った化粧品がほしい」などの想定に従い、手話による買い物に挑戦した。

授業は、講師の聴覚障害者一人と受講生二人がチームとなり、受講生が、講師に商品説明をする実践方式で行われた。

「新しい冷蔵庫を買う」という想定に挑戦したのは、新里孝さんと中里めぐみさん。講師の前泊恵子さんは「同じ値段なのに何が違うのか」「値下げはできるか」などと次々に質問。二人は、店員が説明する冷蔵庫の性能や機能を手話に代えるのに四苦八苦した。新里さんは「難しい。教室で勉強する時は基本的な言葉を使うが、実際外に出ると生活に密着した言葉が必要になる」と話した。



店員と買い物客の間を取り持つ実践的な授業を取り入れた沖縄市社協の手話奉仕員養成講座＝具志川市のサンエー具志川メインシティ

（21） 市町村　1995年（平成7年）3月17日　金曜日　夕刊

聴覚障害者2人も卒業

島マス記念塾 前泊さんと城間さん

沖縄市

【沖縄】戦後沖縄の福祉向上に尽力した島マスさんの精神を顕彰し地域の人材を育成する「島マス記念塾」の第二期卒塾式が十三日午後、沖縄市社会福祉センターで行われ、二十一人の塾生が卒業した。塾生の中には二人の聴覚障害者がおり、手話通訳を介し熱心に受講した。二人は「講義で学んだことを後輩に伝え、地域に生かしていきたい」と話している。

この二人は沖縄市登川の前泊恵子さん（三九）と同市胡屋の城間枝利子さん（三九）。城間さんは那覇市役所の聴覚障害相談員を務めている。

二人の入塾のきっかけは塾のシンボルともいえる島マスさんのイラストのあるポスター。「かわいらしいおばあちゃんだと思い、魅了された。この人のことが知りたかった」と前泊さん。城間さんも「ポスターが目を引いた。プログラムの内容が良かった」と動機を語る。

講義は六月から二月までの二十四回。福祉、歴史、経済など内容は多岐にわたり、二人の視野を広めた。前泊さんは「チャンプルー文化や首里城の歴史を学べて良かった」と話す。城間さんは、一つのテーマに沿い自分の意見を三十秒で発表するスピーチマラソンを挙げ「こんなコミュニケーションの方法があるとは知らなかった」と話した。

障害のため苦労することも。ディベートなど論議の場面で、相手の話す言葉が早過ぎて、手話を介した対話に付いて行けなくなることや、目の疲労に悩むこともあったという。

講義を終え卒塾証書を手にした二人は笑顔を浮かべる。前泊さんは「人に対して優しく、という島マスさんの心を受け継ぎたい」。城間さんは「聴覚障害を持つ後輩にも学んだことを伝えてゆきたい」と抱負を語っている。



手話通訳を介して受講し、卒塾した前泊さん（写真左）と城間さん＝沖縄市社会福祉センター

沖縄市消防

携帯メールで119番

新システム運用を開始 障害者の通報容易に

【沖縄】耳や言葉が不自由な人々が、緊急時に「119メール・119FAX」の運用開始式が二月二十八日、沖縄市消防本部で実施された。この仕組みの運用は県内で初めて。

式で市消防本部の内間安彦消防長は「これまで、聴覚障害者や言葉の不自由な方々の緊急時の通報が大変心配だった。新たなシステムの導入で、より迅速に状況を把握できるようになった」とあいさつ。この後、式に駆けつけた聴覚に障害のある人々を前に、同本部の職員がシステムの利用の仕方について説明した。

市身体障害者協会聴覚部会の前泊恵子会長は「携帯電話の電子メールで緊急通報できるようにしてもらい、心から感謝している。これからも私たちが住みよいまちづくりを進めてほしい」と、感謝の気持ちを手話で表した。



聴覚に障害がある人々が携帯電話の電子メールで緊急通報できる「消防119メール・119FAX」の運用開始式＝沖縄市美里の市消防本部

聴覚障害者に電話手帳贈呈

NTT西日本沖縄支店

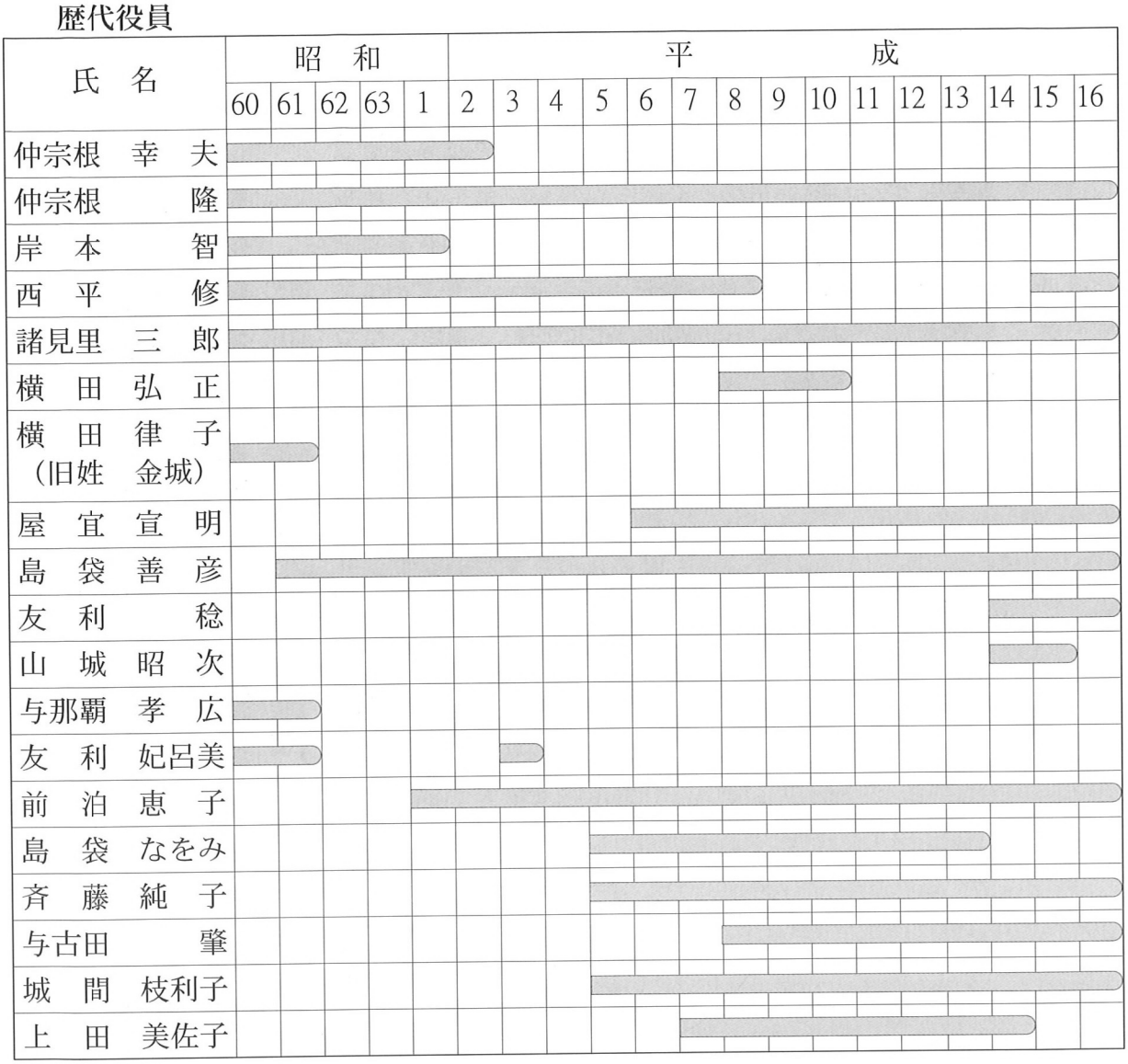
【沖縄】三月三日の「耳の日」にちなみ、聴覚障害者の電話連絡に役立ててもらおうと、NTT西日本沖縄支店の田中篤夫支店長ら四人は四日、沖縄市役所に仲宗根正和市長を訪ね、外出先で電話したい場合近くの人に協力依頼する際利用する「電話お願い手帳」二百五十部などを贈呈した＝写真。



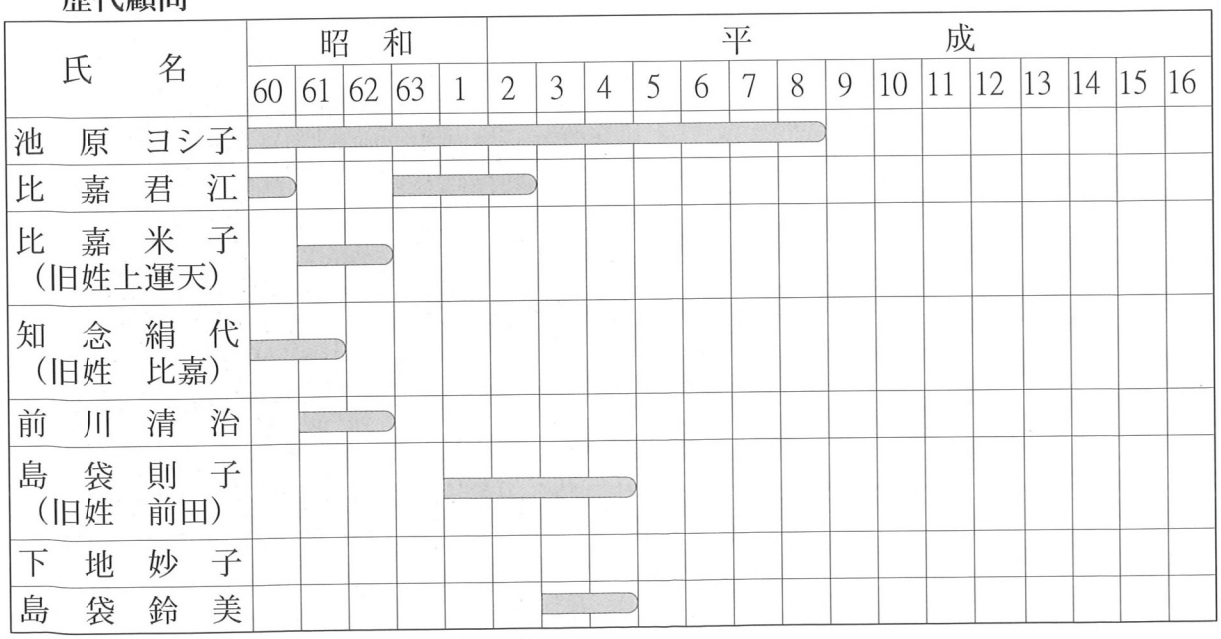
百二十部と、FAX送信用紙「ふれあい速達便」二百五十部などを贈呈した＝写真。

この贈呈は二十回目。仲宗根市長は「頭が下がる思い」とお礼の言葉を述べ、同席した沖縄市身体障害者協会聴覚部会の前泊恵子部会長は「毎年贈呈していただき大変感謝している。手帳やFAXは日ごろから利用し、本当に助かっている」と手話で表した。

歴代役員


氏名
昭和
平成
60 61 62 63 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16
仲宗根 幸夫
仲宗根 隆
岸本 智
西平 修
諸見里 三郎
横田 弘正
横田 律子（旧姓 金城）
屋宜 宣明
島袋 善彦
友利 稔
山城 昭次
与那覇 孝広
友利 妃呂美
前泊 恵子
島袋 なをみ
斉藤 純子
与古田 肇
城間 枝利子
上田 美佐子

歴代顧問


氏名
昭和
平成
60 61 62 63 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16
池原 ヨシ子
比嘉 君江
比嘉 米子（旧姓上運天）
知念 絹代（旧姓 比嘉）
前川 清治
島袋 則子（旧姓 前田）
下地 妙子
島袋 鈴美

編集後記

沖縄市聴覚障害者部会は設立20周年記念誌を発刊作成する資料の収集の仕方、順序の方法も説明せずに写真班とも何度も集まり、各団体の記念誌を参考にしながら話し合い、小さな聴覚部会の記念誌を考慮しながら慌ただしく始まりました。

20年間の資料と写真などあったり、なかったりして、あせったりしてしまいましたがなんとか収集出来、取り組みました。祝辞の原稿、お忙しい中に作成下った方々へのご協力を得て、原稿も集まり、発刊にこぎつけることができました。

最後になりましたが祝辞や原稿をお寄せて下さいました皆さま方に心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

平成17年２月



編集担当者

前泊恵子
西平修
城間枝利子
斉藤純子
諸見里三郎
島袋善彦
与古田肇



発行日：平成17年２月20日

発　行：〒904-0003　沖縄市住吉1-14-29
（沖縄市社会福祉センター内）
沖縄市身体障害者協会
TEL・FAX(098)９３８-３４８０

印　刷：沖縄コロニー印刷
TEL(098)９３８-５２２２
FAX(098)９３８-５２２４

